

仙台大原簿記情報公務員専門学校
令和6年度 学校関係者評価報告書
(実施日 令和7年6月26日)

令和7年6月
学校法人北杜学園
仙台大原簿記情報公務員専門学校

学校関係者評価について

専修学校の学校評価については、学校教育法及び学校教育法施行規則の改正により、自己評価・学校関係者評価の実施・結果の公表に関する規定が設けられております。

専修学校としての責務を果たすべく、学校法人北杜学園仙台大原簿記情報公務員専門学校では、すべての活動・業務において、現状を点検してその改善を図るために学校自己評価に取り組み、「自己点検・評価報告書」を取りまとめてHP上に公開しております。

本校に関係の深い方々からご意見を幅広くお伺いして、学校運営・教育活動等に反映させるべく、学校関係者評価委員会を設置し学校関係者評価を実施しております。評価委員の皆様からは多くの貴重なご意見をいただき、評価項目ごとに要約して本報告書に取りまとめました。「令和6年度自己点検評価表」と併せてお読みください。

貴重なご意見は今後の施策・改善活動に反映させて、教育水準のさらなる向上に尽力して参りたいと存じます。関係の皆様には引き続き、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

令和7年6月
学校法人北杜学園
仙台大原簿記情報公務員専門学校
校長 門田 勝

目 次

1. 学校関係者評価の実施方法について	3
2. 学校関係者評価委員会 評価委員	3
3. 基準評価ごとの学校関係者評価・意見	4
(1) 教育理念、目的、人材育成像	4
(2) 学校運営	4
(3) 教育活動	5
(4) 学修成果	5
(5) 学生支援	6
(6) 教育環境	6
(7) 学生募集	6
(8) 教育の内部質保証システム	7
(9) 財務	7
(10) 社会貢献・地域貢献	7
(11) 国際貢献	7

1. 学校関係者評価の実施方法について

令和6年度学校関係者評価の実施にあたっては、文部科学省生涯学習政策局が平成25年3月に公表した「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考にしている。

学校関係者評価委員会は卒業生、経済・産業界、学識経験者等の外部関係者によって構成され、自己点検・評価結果の検証を行う。本校教職員との対話、学校見学等を通じて、教育活動や学校運営に係る課題を共有して、本校に対して意見・提言を行うことが期待されている。

学校関係者評価では、「令和6年度自己点検評価表」に基づいて、その点検・評価内容について検証を行い、外部関係者である評価委員から本校に対する意見・提言が行われた。当該意見・提言は校長以下、教職員で組織する自己評価委員会が承り、評価項目ごとに要約して本報告書に取りまとめた。

2. 学校関係者評価委員会 評価委員

【学校関係者】

池田 東照	東北学院大学相談員	
	元 宮城県大河原商業高等学校校長	
岸川 季史	熱海建設株式会社 取締役部長	
熊谷 静香	株式会社システムロード	
佐々木 有実	株式会社学園ファシリティーズ 係長	(本校卒業生)
佐々木 知香	有限会社霞友会計事務所	(本校卒業生)

【委員会事務局（自己評価委員会委員）】

門田 勝	仙台大原簿記情報公務員専門学校 校長
小関 哲也	仙台大原簿記情報公務員専門学校 副校長
久保田 佳子	仙台大原簿記情報公務員専門学校 副校長 兼 事務局長
鈴木 秀俊	税理士会計士系学科学科長 兼 情報ビジネス系学科長
菊地 裕俊	税理士会計士系学科学科長 兼 情報ビジネス系副学科長
佐藤 弘章	公務員系学科学科長
佐々木 智也	公務員系学科副学科長

3. 基準評価ごとの学校関係者評価・意見

(1) 教育理念、目的、人材育成像

課題・改善方策	関係者評価・意見
昨年度、コース設置やカリキュラムの内容について、「資格取得希望者が大学に通いながら専門学校にも通学する方法を検討してはどうか」との意見をいただいた。授業時間帯の変更・拡大等コース設置に向けては制約も多いため、既存の社会人課程との連携強化やVODの活用等について検討していく。 また、新設した「社会保険労務士コース」は企業からも即戦力人材としての期待が高まっているとの評価をいただいたので、今後は合格者の輩出とコースの認知拡大に向けて取り組みたい。 課題は、公務員学科の公安系志望者に向けて、資格取得支援などをカリキュラムに組み込み、進路に即した教育内容を充実させることである。 他、社会経済の変化に対応するため、委員会や企業との意見交換を通じてニーズを把握し、中長期的視点で将来構想の策定を図っていく。	専門学校は、社会で即戦力として活躍するための準備を行う機関であることから、在学中に必要な資格を取得させることは、教育の観点から非常に重要な取り組みである。また、社会情勢が不安定な時期には、資格保有者が採用等で優先される傾向があることから、学生が社会に出る前に多様な資格取得の機会を提供し、実践的な指導を行うことが求められる。

(2) 学校運営

課題・改善方策	関係者評価・意見
昨年度、iPad活用の一環として「防災マニュアルを電子化することについて、閲覧する場所や時間帯の制約がないため効果的である」との意見をいただき、学生便覧に盛り込んだ。 また、「授業研究の方法として学生に実施している授業アンケートについて、今後もWeb方式で実施してほしい」との意見をいただき、継続実施していくこととした。 課題は以下の2点である。 ①教職員の専門性を尊重しつつ、校内研修や情報共有を充実させ、学習指導に生かせるよう継続的な成長を支援する仕組みを検討する。 ②学内システム導入後も教務事務との連携が不十分で業務が煩雑であるため、出席・成績管理等の見直しを行い、連携性を高め業務の効率化を図る必要がある。	各企業はそれぞれの業務に必要な研修を開催している。研修の内容は個人のスキルアップのみならず、企業全体の評価向上に直結するものである。貴校においても、教職員の各専門性を高める研修の実施や情報共有について、組織的な支援を検討していただきたい。 また、学内のシステムについては、関係部署と連携を図りつつ、費用面にも留意して、利便性の高いシステム構築を目指していただきたい。

(3) 教育活動

課題・改善方策	関係者評価・意見
昨年度、課題として挙げた3ポリシーの明示について取り組み、アドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーを学生便覧に盛り込んだ。定期的に実施することが望ましいとの意見があった授業研究については、実施時期や方法について引き続き検討していく。 また、個々の教員に委ねられているカリキュラム作成を見直し、カリキュラム作成委員会と教務運営委員会の連携強化と方針共有、検証を行うとともに、教育課程編成委員会や業界関係者など外部の意見も反映し、教育内容の一貫性を高めていきたい。 他に、一部学科でインターンシップを実施しているが受け入れ先の確保が難しい。地元企業や関係機関と協働し、地域での職場実習機会を体系的に整備する必要がある。	カリキュラム作成に関しては、引き続き各委員会が連携を図りながら、外部の意見を取り入れつつ、各学科の教育目標や育成人材像に沿った体系的な教育内容が構築できるように、取り組みを継続していただきたい。 インターンシップは、企業側にとって準備や対応に負担感がある一方で、優秀な学生を獲得できる可能性もあるため、受け入れの機会を増やすことも検討していきたい。また、関連分野における実践的な職業教育を目標として、これからも積極的に活用していただきたい。

(4) 学修成果

課題・改善方策	関係者評価・意見
「学生に地元企業の魅力を伝え、有名企業だけでなく広い視野で就職活動を行わせることが重要である」との意見を踏まえて、地元企業を対象とした学内合同企業説明会を実施した。企業や学生からも好評だったため、次年度も継続して実施していく。 また、卒業生の進路把握について、内定企業や本人からの聞き取りに限られており、卒業後のキャリア形成の状況や社会的な評価・活躍の継続的な追跡が十分に行われていないことが課題である。卒業後の進路や職場での活躍状況について、可能な範囲で継続的な情報収集を行い、教育成果の把握・分析に努めていく。	卒業生の就職後の動向把握について、企業アンケートの実施によりフィードバックされた評価を教育内容に反映させ、より実務で評価される教育内容に繋げることが出来るように改善方策を実施していただきたい。

(5) 学生支援

課題・改善方策	関係者評価・意見
昨年度、「学習支援アプリの導入について、特性を生かし効果的に運用すべきである」との意見をいただいた。現在使用している学習支援アプリは、学生の自主的な学習をサポートし、時間の活用や記憶の定着を促す観点において効果がみられた。引き続き効果的な運用を検討していく。 課題は、卒業生の動向把握が卒業担任個人に委ねられているため、情報の収集が不十分な点である。学科別同窓会など連絡手段の整備を検討し、合同企業説明会後のアンケート等を活用して、進路や職場での活躍状況を定期的に調査・分析し、教育成果として記録していきたい。	卒業生の動向把握については、企業や個人宛に勤務先確認のDMや同窓会新聞が送付される例はあるが、同窓会の組織的な活動はあまり見受けられない。貴校の仙台駅に近い立地を生かし、同窓会の開催や卒業生との連絡手段の検討を進めることも有効な方策の一つである。

(6) 教育環境

課題・改善方策	関係者評価・意見
昨年度、「就職支援における、体験談等の資料電子化について、外部の大手就職サイトの利用により学内の資料は活用率が低いのではないか」との意見があった。保管スペースの問題もあるため、学内資料の活用状況を見ながら引き続き検討する。 また、図書コーナーに設置している蔵書が不足していることが課題である。図書コーナーに各検定対策に対応した参考書籍などの蔵書を充実させていく。	蔵書の充実を図り、学生が必要な資料にアクセスできるように、使いやすい環境の整備を進めていただきたい。

(7) 学生募集

課題・改善方策	関係者評価・意見
昨年度、「奨学金制度の周知について、今後利用者は増加すると思われるので、継続的な実施が必要」との意見をいただいた。奨学金制度の拡充は学生募集に繋がることからオープンキャンパスでの個別相談等も継続していく。 2025年度からWeb出願を導入したが、利便性に課題がある。運用結果を踏まえ、スマホ対応や事務作業の簡素化など、実用的なシステムへの改善が必要である。 他に、奨学金制度の理解不足で一部学生が手続きに苦慮している。入学前に説明会を複数回実施し、予約者への事前告知や資料記載方法の工夫で円滑な対応を図ることとしたい。	学内システムが、より実用的に運用できるよう改善を進めるとともに、奨学金制度の理解促進と円滑な手続きに向けた対応を引き続き検討していただきたい。

(8) 教育の内部質保証システム

課題・改善方策	関係者評価・意見
個人情報の取り扱いとは極めて重要で、常に細心の注意が求められる分野であるため、継続的な取り組みとしての体制を整えたい。教職員会議等の場を活用しながら、情報管理に対する意識の向上を図り、組織全体での取り組みを強化していく。	個人情報の取扱いについて、教職員に対し周知し意識づけができていくかについては、引き続き検証していく必要がある。

(9) 財務

課題・改善方策	関係者評価・意見
「財務状況は安定しており適正に運営されている。」との評価を受けた。引き続き適正な情報公開に努めていくことを確認した。	財務状況については適正に運営されている。

(10) 社会貢献・地域貢献

課題・改善方策	関係者評価・意見
昨年度、「高校生対象の公務員職業セミナーを中学生対象に広げて公務員志望者層を拡充していくことや、中学生対象の体験授業や職業体験を、今年度も同様に開催していただきたい」との意見をいただいたので、今年度も継続して開催していく。 また、外部団体のボランティア紹介にとどまらず、本校が地域貢献活動を企画・実施し、主体的な取り組みを推進する体制づくりが求められる。	社会・地域貢献は学校の重要な役割であり、学校主体による地域貢献活動の企画・実施について、今後の検討をお願いしたい。

(11) 国際交流

課題・改善方策	関係者評価・意見
留学生の受け入れについては実績がなく、体制も十分ではないため実現可能な範囲から整備を進めていく。	留学生の受け入れは学校の判断に委ねるが、他の形での国際交流の可能性について、引き続き検討していただきたい。